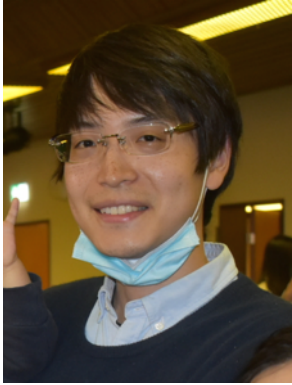


## ちいさな証

## スイスで教えられたこと

松尾欣哉

スイス日本語福音キリスト教会



私たちは2021年3月にベルンにやってきました。その初めからJEGの皆様祈っていただき、支え、お交わりに加えていただいたこと心から感謝しています。

私は6人兄弟の末っ子としてクリスチャンホームで育ち、小さい頃から教会へ連れられて行っていました。信仰の確信が与えられ洗礼を受けたのは中学2年の時です。

日本では脳神経内科という、脳梗塞や認知症などに加えて“神経難病”といわれる病気などを担当する診療科で、医師として働いていましたが、この度基礎研究の勉強をさせてもらいにスイスにやってきました。スイスでの仕事は正直、自分のできなさを痛感させられてとても辛いと感じていました。日本では気づいていませんでしたが、自分が勉強してきたこと、仕事で努力したこと、できることが増えてきたこと、周囲から評価されてきたこと、それらから得る“承認”は自身が思う以上に私の心の中心を占めていたのです。

さらにつきつめれば、“他人と比べてなにか自分が優れている点”をもってして価値を見出し安心しようとしていました。しかし状況がガラッと変わり、いままで自分が積み上げてきたことが何一つない、できない、ましてや言葉すら満足でなく、周囲に認めてもらえないなかに置かれ、いままで頼りにしていたものが見事に取り去られたのです。口では「他人と比べてではなく、神様に愛されていることに価値がある」と言っていたはずなのに、実際に取り去られた時にいかに自分の心が揺さぶられているかを見たとき、一体私はなにをしてきたのかと思われました。「クリスチャンなんだから、神様に愛されていることに満足しなければならない」と自分に言い聞かせても、現実には苦しくてまるで息ができないような感覚でした。

「神様に愛されている」という言葉が心のうわべを滑っていく、クリスマス前のある日バスの中でそれを思い巡らしていたときに、不思議にふっと絵本のような物語が頭に思い浮かんできました。小さい頃から父親に「お前を誰よりも愛しているよ」といわれて育ってきた息子が、いつも言われるあまり父親の言葉に鈍感になって、「そんなことはわかってる！でもそれだけじゃあダメなんだ」といって飛び出す。そして自分で自分の価値を作り出し周囲にも認めてもらおうとして、いろんなことに一生懸命打ち込んで、もがいて成功したり失敗したりしているが、なにをやっ

ても心のどこかで満たされない・・・まさに私がやっていたことはそのようなものでした。

さらに、自分も父親ですが、父親ならそんな息子に何と声をかけるだろうかと考えました。一つは息子をこんなに大切に思う気持ちや伝わらないことのもどかしさ、寂しさ。そしてもう一つは、どんな失敗をしようと、周りの人が何と言おうと、その子の“価値”は父親である自分から見れば一ミリも揺らぐことはない。だから自分の価値を証明するために努力する必要なんてないし、してはいけない。そんなことよりも、その子の持っている素晴らしい能力や時間をもっと別のこのために使って欲しい。本当の喜びに溢れたこと、周りの人のために、その子にしかできない大切なこのために限られた時間と力を使いなさい、と私自身が神様から言われていると感じました。



スイスIEG修養会に家族で参加 (Hemberg/SG) のために生きるか、その根本を問われていると感じます。

これは神様からの宿題です。日本に帰ってまた以前の忙しく、周囲から“認められる”場に戻った時に、言葉ではなく日々の行いと小さな選択でお応えしなければいけません。お応えできる力は私の中にはありませんが、とにかく毎日主の前に静まり、御言葉に聞くことを通して変えられていきたいと願っています。

ここにはとても書ききれませんが、スイスでの多くの交わりと祈りの中で、神様は他にも私にたくさんの祝福を与えてくださいました。お交わりいただいた兄弟姉妹、そしてなによりも全てを与えてくださる神様に感謝しつつ、証とさせていただきます。

